

遊戯王—黒炎の決闘者—

ケケマロ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

そこは荒廃した都市

かつてデュエルモンスターズにより繁栄していたその都市は

別世界のデュエルモンスターズにより壊滅した

黒い瞳の少年は野望を冀む

赤い瞳の少年は救済を望む

碧い瞳の少年は決闘を臨む

二色の瞳の少年は新世界を見つめる

少年たちはいつしか同じ未来をその瞳に映すこととなる

注意事項

●遊戯王―旋風の疾走決闘者―：Reの続きです。

●カード効果は原作・アニメ効果ですが、

都合や演出上ゲーム・OCGの効果になる場合があります。

●OCGで再現不可能なコンボがあります。

●禁止、制限カードはありません。

凶悪になつてゐるカードやそれ以上に凶悪なカードもあります。
(例：地縛神や三極神等)

丸くなつてゐるカードもあります。
(例：E mヒグルミ等)

●ボスカードのオリカは凶悪な性能になつてゐます。

オリカに拒絶反応を示す方はブラウザバック推奨です。

目次

注意詳細	1
黒炎の決闘者「遊希」	5
瓦礫の海賊	17
ピエロの覚醒	31
北のガーディアン	53

注意詳細

まず―黒炎の決闘者―を開いていただき誠にありがとうございます。

この作品は―旋風の疾走決闘者―の続編にあたる作品です。

まず作品を分けた理由は2つあります。

1つ目は前作は『風薙遊悟』のサクセスストーリー』であることです。

この作品のタイトルである『黒炎の決闘者』とは、

エクシーズ使いである「ユーノ」のことです。

とりあえず「遊悟」には死んでもらいます…というのは冗談で、

脇役をやってもらいます。

「ユーノ」のストーリーをやった後、

「遊悟」と「ユーノ」のダブル主人公の作品を手掛けます。

2つ目は全編に渡ってオリジナルカード（以下オリカ）を使用するためです。

自分自身オリカを使用することに抵抗感があったため、

初めは使わない方針で進んでいましたが、

「こんなカードいいな」「できたらいいな」

という思いが膨らんでいったこと。

そして、

「なんでこの程度のカードもないんだ」「このカード「No.」ナンバーズしかねえな」

「こいつこんなピンポイントでしか使えないカードなんで入れてんだ」

という原作カードのみの創作デュエルにありがちなパターンに嵌り、

意欲が著しく減退したのが要因です。

特に「幻影騎士団」ファンタム・ナイツは種類が少なく、

主人公である「ユーノ」デュエルの決闘が単調になってしまっているのは避けたいです。

なるべく禁止級極TUEEEなオリカは通常デュエルでは出さず、

面白い効果だなーと思える効果でまとめていくので、

前作を読んでいただいた方にも、

今作から読み始めていただけの方にも、

読めるレベルの決闘デュエルを作っていこうと思うので、

何卒よろしく願います。

最後に「遊悟」「ユーノ」の使用するカードを掲載して終わりにします。

これからもよろしく願います。

《S R スピードロイド ビックリボー》

レベル1 / 風属性 / 機械族 / ATK300 / DEF200 / チューナー
効果不詳

《ダーク・リベリオン・ザナドウ・ドラゴン》

ランク4 / 炎属性 / ドラゴン族 / ATK2500 / DEF2000
効果不詳

効果は用意していますが、後のお楽しみということ。

投稿は毎週火曜日を予定しています。

それでは今後ともよろしくお願いします。

エラーを吐かれたので自分語りで枠を潰していきます。

ブラウザバック推奨です。

「ABC」は環境に帰って来れましたね。

リンクとの相性も良くこれから存分に力を発揮するでしょう。

気になることがあるとすれば、

スピードロイド

「SR」使いとしてはベイゴマ帰って欲しいと言う他ありませんが、

「リンク召喚」の加速度が気になるところです。

シンクロエクシースペンデュラム

S X P を越えて最速で使われるようになってます。

まあルール変更で使わざるを得ないのはしょうがないですが。

「ブレードフライ」リメイクよこせよ！よこせよ！

渋谷区大型テパートヨコセヨー！

字数足りたので終わります。

黒炎の決闘者「遊希」

少年はある場所へと向かった。

その場所はこの街の中心部、デュエル広場だ。

遊希達「レジスタンス革命軍」はこの次元に進攻してきた別次元の人間と闘うために、

この日のために散り散りになり、援軍を待った。

固まって行動しないのは一人の方が隠れやすく、

また、進攻する狩人との戦闘をできる限り減らすためでもあった。

遊希「みんな無事ならいいが……」

そう呟き、ビルの上を跳ね渡る。

すると、遊希の右から光線が飛んできた。

遊希はひらりと躲し、光線が来た方向へ見やる。

そこに居たのは狩人：いや、そこ彼処にいる狩人ではない。

それは月、そう思わせるように青く輝く瞳を持つ少女がいた。

遊希「何者だ」

遊希はディスクを構え、臨戦態勢に移る。

「私の名はディアナ！お前を狩る者！」

遊希 「：フツ」

ディアナ 「何が可笑しい！」

遊希は素直に名を答えた少女に思わず笑ってしまった。

遊希 「何でもないさ：：さあ、さっさと決闘デュエルを始めよう！急いでいるのでな！」

ディアナ 「ネズミ風情が：：！片付けてやる！」

『アユエル!!』

ディアナ 「私のターンからだ！私は「月 光 銀 馬」を召喚！」

銀の髪をなびかせた、女性型のモンスターが現れる。

遊希 「攻撃力2000：：！」

ディアナ 「私はカードを1枚伏せてターンエンド！」

遊希 「僕のターン！僕は「幻影騎士団 ファントム・ナイト デイム・ピアス」を発動！」

このカードは、デッキの1番上のカードを墓地へと送り、

そのカードがモンスター以外ならば、レベル3モンスターとして特殊召喚できる！」

ディアナ 「ハッ！そんなギャンブルカードなんか！」

遊希 「先に教えておいてやる：僕のデッキは、全て魔法・罠マジック・トラップで構成されている！」

ディアナ 「何!？」

遊希「デッキトツプは罨！よってディム・ピアスを特殊召喚！

もう1枚の「ディム・ピアス」を発動！デッキトツプは罨！コイツも特殊召喚だ！」

デアアナ「レベル3モンスターが2体…来る！」

遊希「そう、この次元の戦法！「エクシーズ召喚」！」

2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築！

眠り続ける漆黒の刃！反逆の狼煙を上げる！

エクシーズ召喚！現れる、幻影騎士団ファンタム・ナイツ スロウス・ダガー！

漆黒のマントを纏う軽装の騎士が降り立った。

デアアナ「コイツが例の…だが攻撃力は同じ2000！大したことは無いな！」

遊希「僕は「幻影騎士団ファンタム・ナイツ ブラント・ペンダント」を発動！

スロウス・ダガーを対象に効果を適用！

対象モンスターの攻撃力を次の僕のターンまで500アップさせる！

バトル！スロウス・ダガーで攻撃！」

幻影騎士団ファンタム・ナイツ スロウス・ダガー ATK2500

漆黒の騎士はその手に持つ小剣で銀馬に斬りかかった。

デアアナ LP4000↓3500

デアアナ「くっ！だが「銀馬シルバ！ポニー」の効果が発動！

このカードが戦闘を行ったダメージ計算終了時、デッキから「融合」を手札に加える！」

遊希「…「融合」！お前達のキーカードか…！」

カードを3枚伏せターン終了！」

ディアナ「私のターン！私は「月光香」を発動！

墓地の「月光」を特殊召喚する！シンライト・ポニー「銀馬」を召喚！

そして「融合」を発動！場の「銀馬」と、

手札の「碧狸」を融合する！」

月の引力により渦巻きて新たな姿を得よ！

融合召喚！出でよ、シンライト・サラブレッド・ダンスー月光舞聖馬姫！

少女のモンスターは銀の髪から純白に輝く長い髪になり、

そして舞姫の恰好をした姿へと変容した。

遊希「攻撃力は2000のまま…か…！」

ディアナ「甘く見るな！グリーン・ラクー「碧狸」の効果！

相手の場のモンスター1体の攻撃力を私の場の「月光」の攻撃力に加える！」

碧の髪の少女がニヤリとほくそ笑む。

舞姫は大きく輝きを放ち始めた。

遊希「ちい！僕のモンスターは攻撃力を加えたか……！」

月光舞^{ムーンライト・サマフレッド・ダンサー}聖馬姫^{サラフレッド・ダンサー} ATK20000↓4500

ディアナ^{ディアナ}「聖馬舞姫！攻撃だ！」

遊希「僕は罠^{トラップ}カード「幻影剣」^{フアントム・ソード}をスロウス・ダガーを対象に発動！

対象モンスターの攻撃力は800アップする！」

騎士は新たな赤い剣を手に舞姫に立ち向かう。

幻影騎士団^{フアントム・ナイト} スロウス・ダガー ATK2500↓3300

ディアナ「それでも攻撃力はこつちの方が上だ！」

遊希 LP4000↓2800

遊希「がはっ！」

舞姫の攻撃に遊希はビルの柵に叩きつけられる。

落ちないよう体勢を持ち直す。

遊希「スロウス・ダガーはO^{オーバーレイユニット}RUを1つ使うことで破壊を無力化、

そして攻撃力を300アップする！」

幻影騎士団^{フアントム・ナイト} スロウス・ダガー ATK3100

ディアナ「私はカードを1枚伏せターンエンド……」

ターンエンド時に攻撃力は元に戻る。

お前は「ユーノ」…私達の邪魔をする…この次元随一の実力者…
やはりその程度だったか…私のために倒れる!!」

遊希「フン…僕のターン、ドロー!」

僕は「ブランドン・ペンダント」の効果のスロウス・ダガーを対象に発動!

攻撃力は3600にアップ!バトルだ!」

ディアナ「罠カード「月光跳躍」!」

相手モンスター1体を守備表示に変更し、守備力を0にする!」

これは…!あのモンスターに守備貫通の能力が備わっていると見ていいだろう…!

遊希「僕は「幻影騎士団 トウーム・シールド」を墓地から発動!

こいつを除外することで相手の罠の効果は無効にする!」

ディアナ「…!」

遊希「やれ!スロウス・ダガー!」

二刀の剣を操り、舞姫を切り裂いた。

ディアナ「舞聖馬姫の効果!」

破壊される時、手札か場の「月光」を代わりに破壊できる!

私は手札の「月光紅狐」を破壊!」

舞姫は紅い少女を盾に戦場に生き残った。

遊希「だがダメージは受けてもらおう！」

ディアナ LP3500↓1900

少女はその攻撃の風圧で後ろに弾かれる。

ディアナ「くっ……！クリムゾン・フォックス 紅狐の効果！」

カード効果で墓地へ行った場合、相手モンスター1体の攻撃力をターン終了時まで0にする！」

紅い少女は黒い騎士の纏う力を奪い去った。

遊希「このターンが終われば攻撃力は元に戻るが……！まさか！」

あのリバーズはもう一枚の為のフェイク！

ディアナ「速攻魔法！「ストライク・バック」！

相手のバトル終了時にこちらのバトルを行う！行け！」

舞姫はくるりと回転すると騎士にカウンターを見舞った。

遊希 LP2800↓800

遊希「ぐああ」

遊希はビルの床に叩きつけられる。

少女は遊希のいるビルへと飛び移った。

ディアナ「貴様……！腑抜けたプレイングをするとはな……

私を…決闘を舐めているのか！」

遊希「くっ…確かに甘く見ていたかもしれないな…」

少年はむくりと立ち上がるとディスクを構えなおす。

遊希「僕はカードを1枚伏せてターンエンド…！」

幻影騎士団 スロウス・ダガー ATK300↓3100

ダメージが残っているのか、ふらりとよろけた。

ディアナ「私のターン！私は「融合贈呈」を発動！

レベル6以上の融合モンスターをリリースすることでカードを2枚ドロウする！

そして私は「月光奇跡舞踏」を発動！

墓地の融合「月光」を含むモンスターをゲームから除外して、

その素材を必要とする「月光」モンスターを融合召喚する！」

遊希「さっきのモンスターより上級のモンスターを召喚するか…！」

月の引力により渦巻きて新たな姿を得よ！

融合召喚！聡明なる力授かりし聖獣！月光舞聖角馬姫！

純白の舞姫は清廉な角を得た。

その羽衣はさらに大きく、相手を威圧する。

ディアナ「月光奇跡舞踏」の効果で召喚したモンスターの攻撃力は、

1000ポイントアップし、舞聖角馬姫ユニコーン・ダンサーの攻撃力は3500!」

遊希「攻撃力3500…!」

ディアナ「バトル! 舞聖角馬姫ユニコーン・ダンサーでスロウス・ダガーを攻撃!」

遊希「僕は永続畏トラップ「幻影虚槍ファンタム・ホロウ・ランス」をスロウス・ダガーを対象に発動!

このカードを墓地へ送り、対象モンスターへの攻撃を無効にする!」

ディアナ「私は舞聖角馬姫ユニコーン・ダンサーの効果を発動!

バトル中に発動したカードの効果を無効にし破壊!

その後攻撃力を300上昇する!」

遊希「何!?!」

発動されたカードを無効にし、舞姫の舞踏はさらに激しさを増していく。

月光舞聖角馬姫ムーンライト・ユニコーン・ダンサー ATK3500↓3800

遊希 LP800↓100

遊希「うわああ」

舞姫の攻撃に仰け反りながらも、今度は受け身をしっかりと取る。

遊希「くう…! 僕は「幻影剣ファンタム・ソード」を墓地へ送り、

スロウス・ダガーの破壊を無効にする!」

ディアナ「防戦一方だな!」

速攻魔法「月光交差」！ムーンライト・アクロス追撃だ、舞聖角馬姫！ユニコーン・ダンサー」

少年は迫りくる舞踏に覚悟を決める。

ここから始まる…：反逆の意志を固める覚悟を。

遊希「速攻魔法！」ランクアップマジック「R U M—エスケープ・フォース！」

黒い騎士は舞姫の攻撃を躲し、空へと跳んだ。

遊希「相手の攻撃を無効にし、

攻撃対象となったモンスターよりランクが1つ高いモンスターをエクシーズ召喚す

る！」

ディアナ「ランクアップ…!?!」

漆黒に染まりし反逆の炎！闇に揺らめき現れよ！

エクシーズ召喚！出でよ、ダーク・リベリオン・ザナドゥ・ドラゴン！

騎士はO R Uに変化し、上位の存在へと昇華した。

遊希「僕のターン！僕はダーク・リベリオンの効果を発動！

オーバーレイユニット O R Uを1つ使い、相手モンスターの攻撃力を半分にし、

その数値分、ダーク・リベリオンの攻撃力をアップする！『トリーズン・ボルテージ』

！」

黒竜はバチバチとその逆鱗を燃え上がらせる。

ディアナ「まだだ！私は墓地の「クリムゾン・フオックス紅狐」の効果を発動！

「ムーンライト月光」を対象にするモンスター効果を無効にし、互いに1000回復する！」

遊希 LP100↓1100

ディアナ LP1900↓2900

ディアナ「そして「碧狸《グリーン・ラクーン》」の効果！

このカードを除外して回復した合計、2000のダメージを与える！」

遊希「僕はカウンター罠「トランプ幻影逆鱗」！」

ダメージを与える効果を無効にし、僕のモンスターの攻撃力を無効にした分の倍アツプする！」

黒竜は叫ぶ。

この荒廃した世界の怒りを背負うように慟哭した。

ダーク・リベリオン・ザナドウ・ドラゴン ATK2500↓6500

ディアナ「攻撃力6500:!?」

遊希「バトル！『反逆のブレイズ・デイスオベイ』!!」

ゴウゴウと燃え盛る突き出た顎で舞姫を突き崩す。

ディアナ LP2900↓0

ディアナ「うわああ！」

ディアナは黒炎に包まれ戦意を失い、気絶した。

遊希「これが僕の……いや……僕たちの反逆の狼煙だ！ ユーリ！ 覚悟しろ！！」
遊希は空を指す。

そこには何もいないが、遊希には見えていた。

邪悪に微笑む、侵略者の顔が。

ソリッドビジョン
立体幻影の炎はまだ静かに、激しく燃え上がっていた。

瓦礫の海賊

「()も廃墟…か…」

辺りを見渡す。

故郷とは違い、人為的に荒らされているように見える。

「おいガキ共オ!!どこから入って来やがったあ!!」

瓦礫の山に居るのはドクロを刺繍した扁平な帽子をかぶった男であった。

「遊悟、呼ばれてるよ」

遊悟「ガキ共●って言うてんだから凜も含まれてるんだろ」

凜「でもあのおじさん遊悟を睨んでるよ？」

「俺はキャプテン・ティース!!質問に答えな!!」

ティースを名乗る男は激昂していた。

「遊悟、彼はティース。僕の故郷、「融合次元」の猛者だ」

遊悟「ふーん…まあ分かったことは…」

ここに来る前に貰った新型の決闘盤デュエル・ディスクを左腕に装着する。

遊悟「あいつは「敵」ってことだな…!」

新しい世界に来て初めて対峙する相手にニヤリと笑う。

ティース「ほう：いきったガキがいるな：それはそれとして：てめえ「ダリオ」！
ユーリに「シンクロ次元」の制圧を命令されていたハズだろうが！

何故ここに来ていやがるんだ！」

ダリオ「ユーリには無い：新たな可能性を見つけたまで：

僕は分かったんだ：！ユーリを止めなきゃならないと！」

ティース「ハッ！くだらん！ユーリに敵う決闘者はいねえ！」
デューピスト

遊悟「敵うかどうかじゃあねえ！俺はユーリを倒す！」

ティース「無謀なガキがよ：！ここでまとめて潰してやるよ！オラ、てめえら！」

ティースが手を挙げると無数の骸骨兵が地面から湧いて出てきた。

凜「なにになに!？」

ダリオ「ティースの兵士たちだよ！」

ユーリの力でデュエルモンスターズのモンスターを実体化させているんだ！」

遊悟「お前は闘わないつもりか！」

ティース「いいや！お前達が逃げないように囲ったまでよ！」

どうする？一斉に掛かって来るかあ!？」

遊悟「いや、俺が相手だ！」

凜「がんばってねー遊悟！」

ダリオ「…」

大丈夫かな…？

ティースのカードとシンクロとの相性は最悪…

でもティースにも勝てないんじゃない…？ ユーリには到底かなわない…！

ティース「貴様が無謀なだけのガキということを教えてくれるわ!!」

『ブユエル!!』

ティース「俺の先行！俺は「融合」を発動！

「海賊船スカルブラッド号」と「スカル・ナイト」を融合中！」

広大なる海！その神秘の渦にて海賊の伝説は蘇るのだ！

融合召喚！いざ抜錨！キャプテン・ロック！

赤い衣を着た海賊が瓦礫の海からその姿を見せる。

凜「攻撃力0…」

遊悟「あれだけ偉ぶっておきながらたかが攻撃力0か！」

ダリオ「いや…彼のモンスターは強力だよ…！」

ティース「俺は永続魔法「宝船の増援」を発動！カードを1枚伏せてターン終了だ！」

遊悟「俺のターン、ドロ…！」

この手札なら……！バンブー・ホースから赤目のダイスを召喚して……
チャンバラライダーを召喚して一気に終わらせる！

遊悟「俺はこのモンスターを……」

ティース「キャプテン・ロツクの効果は相手の手札からの召喚・特殊召喚、
そしてモンスターのセット！全てを封じる！」

遊悟「!?…バカな!?場に出せないんじゃないやあシンクロ召喚ができない!!」

ダリオ「そう……！シンクロは封じられた……！」

ならこの手札じゃあ何もできない……！

遊悟「俺はターンエンド……！」

凜「手札事故……！」

ダリオ「それだけキャプテン・ロツクが強力なロツク能力を持っているということ……」

遊悟「ああ……「キャプテン・ロツク」ってそういうことか！はっはっは！」

ダリオ「そんな呑気な……！」

笑う遊悟を見て凜は安心する。

凜「安心しなよ！遊悟はあんな程度で負けない……というより……」

少女は肩を落とした。

遊悟「遊悟はいつも通り……ううん、いつも以上にリラックスしてる！」

ダリオ「！」

ティース「俺のターン！俺のスタンバイフェイズ！

「宝船の増援」の効果を発動する！俺はデッキからカードを1枚ドロし、

キャプテン・ロックの攻撃力を400上昇させる！

言っておくが「キャプテン・ロック」にも弱点はある！

自身も含めて場に攻撃力1000以上のモンスターがいる時破壊されるのだ！
立体幻影ソリッドビジョンの黄金の船から笛の音が鳴り響く。

海賊船長は大手を振りその声援に応える。

キャプテン・ロック ATK0↓400

遊悟「なるほど…なら強化して自壊させるのも手か…」

ティース「さらに永続魔法「大海戦」を発動！

俺の水属性モンスターの与える戦闘ダメージは2倍だあ！」

凜「400の2倍で800…」

ティース「さらに「宝船の増援」で与えたダメージ分のダメージを与える！

ダメージはさらに2倍の4倍だあ!!」

凜「ダメージ1600…！次ターンは800の4倍で3200！」

遊悟「何も出せないままなら2ターンでゲームエンド…！」

ダリオ「マズい！」

ティース「喰うらええい！ダイレクトアタック!!」

少年は腕を交差し防御姿勢をとる。

赤いドクロは遊悟に襲い掛かった。

遊悟 LP 4000 ↓ 2400

遊悟「くっ」

少年は風に圧され後ろに飛び退いた。

ティース「次がラストターンだぜ？お祈りしてから引くんだなあ！

それとも後ろの連中に助けを求めてみるかい？」

遊悟「ヘッ！あいにく理不尽な決闘デュエルなんて慣れっこなんだよ！

そして…この決闘デュエルに平伏すのはお前の方だ！」

ティース「大口を叩くのは俺に勝つてからにしな！カードを1枚伏せてターンエンド

だ！」

遊悟「俺のターン、ドロー！俺は「シンクロヒーロー」をキャプテン・ロックに装備

！

装備モンスターの攻撃力は500アップし、レベルが1上がる！」

キャプテン・ロック ATK 400 ↓ 900

ティース「装備魔法を引いたか！強運な野郎だ！俺のターン、ドロー！
だが無意味！リバース速攻魔法！「宝船の氾濫」を発動！

俺の「宝船の増援」を破壊し、互いに500ダメージを受ける！」

黄金の船は爆裂し、二人を傷つけた。

遊悟 LP2400↓1900

ティース LP4000↓3500

遊悟「くっ！強化を無効に!?!」

ティース「さらに「宝船の増援」の効果で互いに1枚ドロウする！」

凜「キヤプテン・ロックの破壊を防いで、なおかつドロウする…」

ダリオ「やはりティースは強い…！」

ティース「キヤプテン・ロックでえ！ダイレクトアタック!!」

遊悟 LP1900↓1000

遊悟「ぐあ」

小さい呻きが漏れる。

ティース「次のターンでお前の負けだぜい？1枚伏せてターンエンドだ！」

遊悟「俺のターン…ドロウ…!!俺はカードを1枚伏せてターンエンド…」

少年は顔を上げないままターン終了を宣言する。

壁モンスターも出せないまま。

ダリオ「…!? 何もできないまま終わり…?」

ティース「ガアッハッハッハ!!」

ダリオ「やはり乱入するしか…!」

凛「やめなよ」

少女がダリオを制止する。

凛「これは遊悟の決闘^{デュエル}…ダリオは遊悟と闘ったでしょ? なら信じて」

ダリオは自分の勝手な賭けを思い返す。

そして信じて待つことも賭けの一つであると言い聞かせ、その場に座った。

ティース「信じるだけじゃあ助からねえのさ!

俺のターン! このままダイレクトアタック!!」

赤いドクロが遊悟目掛けて斬り付ける。

その攻撃を遊悟は、

遊悟「…かかったな!」

ティース「なに!?!」

少年の場のリバースカードが光る。

遊悟「俺は「ダイスロール・バトル」を発動!

墓地のモンスターと手札の「ダイス」チューナーでシンクロ召喚する！」

テイス「墓地のモンスター!？」

ダリオ「いつの間に…?!…!…!そうか!」

遊悟「前のターン終了時!俺の手札は7枚…!一枚手札オーバーで捨てていたのさ!
俺は墓地のメンコートに手札の三つ目のダイスをチューニング!」

聡明に輝く澄明の翼!新たな風を巻き起こせ!

シンクロ召喚!出でよ、クリアウイング・シルフ・ドラゴン!

凜「来た!」

ダリオ「遊悟のエース…!」

テイス「なんとお!?!」

透明の翼を煌かす、白い竜が宙を舞う。

白竜の召喚により赤い海賊ドクロはガラガラと瓦礫の海に崩れた。

テイス「…ふっふっふ!この程度想定済み!

俺は永続^{トランプ}罫「テッドマン・パイレーツ」を発動!

破壊された「キャプテン・ロック」を蘇生させ、

さらに墓地のモンスターを装備し攻撃力をそのモンスターと同じにする!

「海賊船スカルブラッド号」を装備し一体化せよ!!」

ガラガラと海を割り、赤い海賊は地獄から蘇る。

その体は黒い船と一体化し、おおよそ人間とはかけ離れた姿に変わっていた。

遊悟「たかが攻撃力1600!」「ダイスロール・バトル」のさらなる効果!

この効果で出したモンスターと相手モンスターで強制的にバトルする!」

凜「よし! 返り討ちだあ!」

白竜が海賊を引き寄せ、翼で切り裂く。

ティース「甘いわあ! 永続^{トラップ}罠」「ゴールデン・クルージング」!

墓地から蘇生した水属性モンスターの攻撃力を2倍にするう!」

キャプテン・ロック ATK1600↓3200

海賊ドクロは金色に染まり、白竜を返り討ちにした。

ダリオ「マズい!」

遊悟「俺は手札の「S R ビックリボー」の効果を手札から捨てて発動!

この戦闘ダメージは0になる!」

金色の海賊は砂柱を巻き上げ、白竜を討伐した。

球状の小悪魔が弾け飛び、衝撃を吸収した。

遊悟「さらに「S R ポックリンボ」の効果が発動!」

ぼっくぼっくと足音を鳴らした子鬼が地面に手を突っ込む。

遊悟「コイツを手札から捨てて破壊されたモンスターをそのままの表示形式で特殊召喚する！」

子鬼は瓦礫に沈んだ白竜を引き上げその姿を消した。

ティース「チイ！次のターンこそ終わりだ！ターンエンド！」

遊悟「俺のターン！……こいつは！」

引いたカードによりキャプテン・ロックの突破だけでなく、勝利への道筋を見出した。

遊悟「よし！俺は」スピードロイド「S R バンブー・ホース」を召喚！

さらにバンブー・ホースの効果により、手札の」スピードロイド「S R 赤目のダイス」を特殊召喚！」

…召喚するのはチャンバライダーではなくコイツだ！

双翼抱く煌くボディー、その翼で天空に跳ね上がれ！

シンクロ召喚！現れる、ハイスピードロイド H S R マツハゴロー・イータ！

遊悟「俺はマツハゴロー・イータの効果を発動！」

このカードをリリースすることでフィールドのモンスターに、

「レベルが変化した時、その変化に1加える」効果を与える！」

ティース「効果を与えるだと？何をしても無駄だ！」

遊悟「俺は手札から「ハイ・スピード・リレベル」を発動！」

墓地のマツハゴロー・イータを除外し、場のモンスターのレベルを全て5にする！」

ティース「何を…」

その時、白竜に輝きが増していく。

遊悟「この瞬間！」「マツハゴロー・イータ」の効果によって付与された、

モンスターレベルを変化させる効果が「キャプテン・ロック」から発動される！

そして「クリアウイング」は発動したモンスター効果を無効にし破壊する！」

ティース「なんだとお!？」

遊悟『『ガスト・リフレクシオン』!!』

白竜は黄金の海賊を噛み砕き、透明の翼にその金色の輝きを宿した。

遊悟「さらに！破壊したモンスターの攻撃力を得る！」

クリアウイング・シルフ・ドラゴン ATK2500↓3700

ダリオ「攻撃力：5700！」

ティース「バカな…!？」

遊悟「バトル！クリアウイングでダイレクトアタック！

行け！『旋風のサイクロン・スラッシュャー』!!』

白竜は回転を付けて、ティースへと突撃した。

ティース LP3500↓0

ティース「ぐわああ!!』

海賊の風貌の男は海賊帽子を飛ばされ、地面に叩き落とされた。

Winner 遊悟

ダリオ「やった！」

凜「遊悟の勝ちい!!」

遊悟「ふうう…際どかったあ…!」

気絶したコイツをどうするか…

『ギャーオー!』

ソリッドビジョン
立体幻影の白竜が東の方角を見つめ哭いた。

遊悟「クリアウイング?なんで消えてないんだ…?」

ダリオ「おそらくユーリの支配権内にいるからだろう…」

ソリッドビジョン
立体幻影に実体が付いているんだ」

遊悟「あっちの方角…?…!そうか…!」

遊悟はそう言うのを男を担ぎ上げ、白竜の見つめる先へと進んだ。

凜「遊悟?」

遊悟「向こう側からユーノの…「ダーク・リベリオン」の鼓動を感じる…」

そこにユーノがいる…合流しよう。そしてコイツもこのまま置いとく訳にも行かな

い」

少年たちは黒竜の鼓動をたどり東へと進む。

この荒廃した都市で何ができるのか、それを知るには黒い少年遊希。故郷に似た境遇の都市に遊悟と凜の心は少し穏やかであった。

ピエロの覚醒

そこは都市の中心。

活気が溢れていた広場にもう面影はない。

噴水には水が無く、ベンチは残らず折れていた。

遊悟「こいつはひでえや…」

広場のマンホールがガタリと開き、

「こつちだユーゴ」

男の招き声が聞こえた。

凜「誰？」

ダリオ「ユーノだ」

3人はマンホールの中へと入っていった。

凜「懐かしいなあ…母さんに出会うまではマンホール生活だったよ」

遊悟「ああ…」

4人は下水道の中を進んでいった。

遊希「改めて自己紹介をしよう。僕の名前は「黒鉄遊希」。この次元の「因子」を持つ人間だ」

遊悟「「遊希」…か…俺は「風籬遊悟」だ。よろしくな遊希！」

凜「僕は凜！姓は遊悟と同じ「風籬」！」

遊希「僕達は戦力が足りなかったところだ。協力感謝する、凜」

そう言うのと遊希はニコリと微笑んだ。

凜「へえ。遊悟と遊希ってそっくりだねえ。

髪色とか服装とかは流石に違うけどさ」

遊悟「ところで…コレはどうする？」

担いでいた気絶した男、ティースは今も意識が無いままであった。

遊希「人質として捕らえる。僕もここへ来る前に一人捕らえた」

下水道の中に少し開けた場所がある。

噴水のあつた場所の下のあたりだろうか。

それにしたって広すぎる場所ではあるが。

遊希「この場所は俺の『時空の因子』の力で別次元と繋がっている。

ユーリにも観測できない俺達の秘密基地さ」

そこにいたのは3人の少年と1人の少女がいた。

遊希「ここが俺達「レジスタンス」の基地…最後の本拠地だ」

「お前…！ユーリ…じゃない…！ダリオか!!」

憎しみの籠められた声がダリオに刺さる。

ダリオ「…」

遊希「やめておけ、魁」

魁と呼ばれる少年は顔を歪める。

魁「何をぬかしやがる…！そいつは俺達の敵だろうが!!」

ダリオ「確かに僕は…僕たちは「エクシース次元」の崩壊を目論み、

君達に近付いて…そして裏切った…謝ったところで許されるとは思わないさ…申し

訳ない…」

魁「ダリオお！」

遊希「…まあ俺の世界だってコイツにボロボロにされたようなモンだから…

その怒りはよく分かるよ…だけどよ…」

二人の間に遊悟が割って入る。

魁「なんなんだてめえは!!」

遊希「「シンクロ次元」の…僕と同じ『因子』の決闘者だ」
デュエカスト

遊悟「だけど今はコイツを責めるより…奪われた人たちを取り返すのが先のハズだ」

魁「!…だがコイツは裏切り者だ…!後ろを任せても、またやられるだけだ!ましてやコイツはユーリの双子の兄弟!

コイツはここで消してしまった方がはるかにマシだ!」

「私も同感ですね」

少女が割って入る。

遊希「リナ…」

少女の名はリナというらしい。

リナ「私たちは確かに人員が不足しています。

でもダリオがまた裏切りでもすれば…マイナス1。

結局いてもいなくても変わらないなら敵に回る前に仕留めた方がいいでしょう」

遊希「…」

遊悟「だけだよ…俺はコイツの言葉を信じてみたいんだ…

奪われた人を助けられるって言葉を…

ユーリを…兄弟を止めたいって言葉をよ…」

WRDCのエキシビジョンマツチの前日。

遊悟とダリオ、そして煉は言葉を交わしていた。

遊悟「鬼瓦煉…コイツを連れていくのか…？連れていって何かが分かるのか…？」

煉「…さあ…少なくともユーリの弱点やらが分かれば儲けモノつてところか」

ダリオ「…待つて欲しい！僕は…ユーリを止めたいんだ！」

ここで拘束されてはユーリの暴走は止められない！」

煉「喚くな…お前の為に何人いなくなつたか分かるのか…？」

^{トッ}富裕都市の被害も多い…

^{サテライト}廃墟都市の人材も腐つても資源だ…この街は致命傷を負つた…」

ダリオ「でも！ユーリを倒せば攫われた人々も元に戻るんだ！」

煉「…確かにカード化技術はこの世界にも存在する…元に戻す技術も確立しつつある

…」

遊悟「…止めるつていうのはどうやってするつもりだ？」

ユーリを騙つた少年は遊悟を見つめた。

ダリオ「説得…なんていうのが通用する相手じゃないのは僕が一番知つている…」

ユーリがあそこまで暴走してしまうのは…負けたことが無いからだ…

遊悟…！君がユーリに決闘^{デュエル}で勝利すれば…

ユーリに隙が生まれるはずだ！そうすればユーリは止まる…はずだ！」

煉「…お前の話には根拠がねえ…そんなのに説得されるものか…」

遊悟「…だけど鬼瓦煉！お前は他に方法があるのか？」

煉「…ねえな…今のところ…な…」

遊悟「ならその話に乗るしかねえ…！決闘デュエルで勝てばいいだけの話なら簡単じゃねえか

！」

少年はニカツと笑った。

警察はため息を一つ零す。

煉「…ならばその責任は風籬遊悟、お前が持て。

ソイツが裏切った時…あるいは障害になった時…ダリオの足を切る覚悟を決めろ」

遊悟「…ああ…必要ならな…」

遊悟「…そう…信じたいんだ…！」

少年の気迫に圧され、魁は少し怖気づく。

魁「だがな…コイツが信用できないってことに変わりは無いんだよ！」

遊希「ならば決闘でカタを付けるしかないな」

遊希はパチリと指を鳴らすと、広間がさらに大きく膨らんだ。

遊悟「なんだ!？」

遊希「言つたろう?ここは僕が作った空間だ。

ここで魁とダリオで決闘を行つてもらおう!」

魁「そうこなくつちやあなあ…正直てめえとの決着を付けたかったところだしな!」

そう言うとき魁は決闘盤を構える。

ダリオ「魁!僕たちは闘つてる場合じゃあ…!」

遊悟「闘え、ダリオ!」

遊悟はダリオの背中をドンと押し、広間の中央へ押しやった。

凜「そうそう!疑われたままでこれから一緒にいられるとは思えないしね!」

ダリオ「…分かった」

そう言うときダリオは剣状のディスクを構えた。

『デュエル!!』

ダリオ「僕のターン…僕は「捕食植物セファロタスネイル」を召喚…ターンエンドだ」

凜「伏せカード無し…?」

遊悟「…」

俺と闘った時と同じ戦術……だが……

あの時の不敵な決闘戦術デュエルタクティクスを感じられない……

あれじゃあ負けに行つてるようなモンだ……!

魁「嘗めるなよ……! 俺のターン! 俺は「ギミック・パペット―死の木馬デス・トロイ」を召喚!

そして「からくりの宝札」を発動! 死の木馬デス・トロイを破壊し1枚ドロウする!

「死の木馬デス・トロイ」の効果!

このカードがカード効果で破壊された時、

手札から攻撃力1000以下の「ギミック・パペット」2体を特殊召喚する!

現れる! 2体の「ギミック・パペット―ネクロ・ドール」!」

魁の場にあつという間に2体の最上級モンスターが召喚された。

遊悟「すげえな……戦略に無駄がねえ……!」

遊希「魁は僕らの次元でもトップクラスの決闘者だからね……」デュエリスト

……ダリオ……

……ダリオ……何を躊躇している……?

魁「俺は! ネクロ・ドール2体でオーバーレイネットワークを構築!!」

心なき騎士の軀むくろ!……ここに運命の糸により立ち上がれ!

エクシーズ召喚! 出でよ、ギミック・パペット―ハートレス・ナイト!

心臓部に孔の開いた甲冑を着たからくり人形がかたかたと嗤う。

凜「これが…エクシーズ召喚…！」

魁「ハートレス・ナイト」の効果…1ターンに1度、オーバーレイユニット O R Uを1つ使い！

フィールドのモンスター1体を破壊する！『デステニー・デモリション』！

孔の開いた騎士は腰の剣を構え、瞬く間にダリオのモンスターをバラバラにした。

魁「この瞬間「ハートレス・ナイト」のもう一つの効果を発動！」

このカードが存在して、フィールドのモンスターが破壊された場合、

相手に1000のダメージを与える！『ライフ・カタストロフ』！

騎士が剣を掲げると、赤い無数の糸がダリオに降り注いだ。

ダリオ LP4000↓3000

ダリオ「ぐうう」

魁「てめえの場はがら空き！ダイレクトアタック！『クラック・ダウン・スラッシュ』

！

騎士はかたかたと嗤いながらダリオに一閃を浴びせた。

ダリオ LP3000↓1000

ダリオ「うわああ！」

ダリオは衝撃に吹き飛ばされる。

魁「俺はカードを一枚伏せターンエンド…

ダリオ「やる気がねえならこのままサレンダーしな!!」

ダリオ「ぐう…僕は…」

遊悟「はくあ!つまんねえ決闘デュエルだぜ!」

わざとらしく大きなため息をついた。

リナ「同感ですね」

凜「一方的過ぎるよお!ハンデハンデ!」

ダリオは倒れたまま動かなかった。

ダリオ「僕…は…」

ユーリを止めようと、遊悟の『運命』を見てからそればかりが頭を支配していた。

僕は…強くなっていない…

「裏切り者のユーリ」…その偽物に過ぎないのか…

遊悟「立ちやがれダリオ!てめえなんでサレンダーを勧められたか分からねえのか!?!」

ダリオは遊悟の言葉に氣にも留めず天井を見ていた。

遊悟「魁デュエルがなんて言っているか分からないのかよ!?

「本気で決闘しようぜ」って言ってるんだ!

お前はそれにも応えられないような…心の無い決闘者デュエリストなのか!?

あいつと同じ…人が苦しんで…恐怖させてばかりのユーリと同じ…

人の心が分からない決闘者デュエリストなのかよ!

ダリオ「…!」

そうだ…! 僕は…

ダリオ「僕は…辛かった…!人をカードにしてエネルギーに変換することが…

恐かったんだ…恐怖で支配しようとするユーリに従うことが…!」

ダリオはグツと立ち上がった。

ダリオ「だから…僕は闘わなくちゃあいけない!みんなの仲間として…!

今までの贖罪をしなくちゃあいけない!

誰かの友達を…家族を…居場所を奪った罪から逃げたらいけないんだ…!」

意志を持った赤い瞳が熱く燃える。

ダリオ「だから…僕は本気で君にぶつかる!

逃げ出そうとする弱虫じゃなく…魁!君の仲間として!」

魁「ふん…ならばこんな気の抜けた決闘デュエルを熱く燃やして見せる!」

ダリオ「任せてよ…僕は稀代のエンターテイナー…」ダリオ・シユメルツ!」

シラケた空気を華やかに変えて見せましょう!!僕の…ターン!!」

ダリオの手元から虹色の輝きが迸る。

遊悟「なんだあ!？」

凜「この光……!」

遊希「アレは……! 覚醒した『因子』の光……!？」

これは元々ユーリの力だった……

でも……「これ」を自分の力に変えて……ユーリをこの僕が倒す!

ダリオ「僕はカードを魔法カード「カード・オブ・ファイバー」を発動!

墓地の植物族とデツキの植物族4体を除外し、除外した枚数分デツキからドロウする

!」

新たにカードをデツキから引く。

引いたカードを手元に加え、1番右のカードを使う。

ダリオ「僕は「融合」を発動!」

リナ「融合……!」

遊希「最初に会った時から……ダリオは融合使いだった……」

魁「引いたカードじゃない……元から手札にあったカード……!」

最初から使つとけてんでよ……! バカがよ……!」

ダリオ「僕は手札の「E m ハット・トリツカー」と、「E m スティルツ・シューター」

の2体を融合！」

凜「エンタ…？」

遊悟「メイジ…だと…!?」

デツキが変わっている!?

遊希「アレはダリオが僕たちと出会った時に使っていたカードか…」

あの時のお前は…「本物」だったということか…

狂喜渦巻く舞台上で華やかに駆け巡れ！稀代の奇術師よ！

融合召喚！現れる、E m エンタメイジトラピース・フォース・マジシャン！

きやははと無邪気な笑いを響かせ、天空の奇術師が舞う。

遊希「やはり…：トラピース・フォース・マジシャン…！」

ダリオ「さらに僕は魔法カードマジック「トラピース・フュージョン」を発動！

このターン融合素材にして墓地に送られた「E m」エンタメイジ2体を特殊召喚し、

そのモンスターを素材に融合を行う！」

狂喜渦巻く舞台上で華やかに駆け巡れ！珍奇なる猛獣よ！

融合召喚！現れる、スターヴ・ヴェノム・フィリア・ドラゴン！

いつか遊悟と対峙した紫竜の面影は残っているが全くの別物のような印象を受ける。

その姿は派手に、そして毒々しく新星のように輝いていた。

魁「コイツは……！」

ダリオ「そう、ユリーの竜だ……！でも……今は僕の竜！僕が操ってみせる！」

「スターヴ・ヴェノム・ファイリア・ドラゴン」の効果！

場のモンスターを素材に融合した場合、

相手の特殊召喚モンスター全ての攻撃力を得る！『サーペント・ポイズン』！

場が鮮やかな紫色に染まる。

スターヴ・ヴェノム・ファイリア・ドラゴン ATK2800↓4800

魁「攻撃力4800……！」

ダリオ「バトル！スターヴ・ヴェノム！『美のグレース・バニッシュ』！」

紫竜は口にエネルギーを溜め、騎士人形へ放出する。

魁「俺は「ガーディアン・パペット」発動！」

「ギミック・パペット」の戦闘破壊を無効にし、ダメージを半分にする！」

魁 LP4000↓2600

魁「ぐあっ」

紫竜の攻撃が通った。

しかし騎士は破壊されず、変わらず不気味な嗤いを浮かべていた

ダリオ「トラピーズ・フォースの効果！フィールドのモンスター1体を対象にする！」

そのモンスターはこのターン2回攻撃できる! 『スポット・スターリング!』

ダリオがパチリと指を鳴らすと紫竜がとぐろを巻いた。

尻尾による追撃が行われる。

魁 「ハートレス・ナイトは破壊されない!ぐう!」

魁 LP2600↓1200

ダリオ 「この効果で追撃した場合、トラピースは攻撃できない!

バトル終了時、スターヴ・ヴェノムは破壊!

この瞬間、スターヴ・ヴェノムの効果が発動!

相手モンスターのコントロールを得る! 『ハザート・リモート!』

遊悟 「コントロール奪取…!」

遊希 「相手にすれば厄介な効果…だが…」

今は味方にいる…頼りになるカードだ…!

魁 「くっ…!」

騎士は竜の毒香に誘われ、魁の場を離れた。

ダリオ 「僕はカードを2枚伏せてターンエンド!」

魁 「俺のターン、ドロ!俺は「オーバーレイ・ダーク・リンカーネーション」を発

動!

相手の場のエクシーズモンスターはO R Uをランダムに1つ墓地へ送り、

それが閥属性モンスターなら俺の場に特殊召喚する！ O R Uは1つ！

「ネクロ・ドール」を特殊召喚し、さらに1枚ドロウする！」

オバーレイユニット
O R Uだった少女人形が元の姿に戻る。

魁「そして「ギミック・パペットーギア・チエンジャー」を召喚！

「ギア・チエンジャー」は自分の「ギミック・パペット」と同じレベルになる！」

遊悟「これでまたレベル8のモンスターが2体……」

魁「2体の「ギミック・パペット」でオバーレイネットワークを構築！」

泣き止まぬ魂に捧げる不滅の旋律！彼方に轟け！

エクシーズ召喚！現れる、ギミック・パペットーキング・ホルン！

赤いマントを纏い、黄金のホルンを持つ王者人形が姿を現す。

ダリオ「相変わらずの迫力……！君のエースモンスターだね……！」

魁「俺は「キング・ホルン」の効果を発動！ O R Uを1つ使い、

オバーレイユニット
このカード以外のフィールドのモンスター全てに「ホルンカウンター」を1つずつ置

く！

カウンターの乗ったモンスターは1ターン後に破壊され、

コントローラーは破壊されたカードの数かける1000のダメージを受ける！」

ダリオ「でも弱点も知っている……発動からのタイムラグが弱点だ！」

魁「その通り……だがその弱点をいつまでもそのままにしておくはずが無いだろ？」

俺は罠 ^{トラップ} カード「デッドエンド・ホルン」を発動！

相手の「ホルンカウンター」の乗ったモンスターを全て破壊し、

その攻撃力の合計分のダメージを与える！」

黄金の笛が赤黒く染まり、断末魔の旋律を奏でる。

凜「凄い……！これが決まったらダリオの負け……」

ダリオ「そうはさせないけどね！ 罠 ^{トラップ} カード「E m ^{エンタメイジ} トラブル・カバー」！

僕の場合に E m ^{エンタメイジ} がいる時、カードを破壊する効果を無効にして、

E m ^{エンタメイジ} の攻撃力を500アップする！」

E m ^{エンタメイジ} トラピーズ・フォース・マジシャン ATK2500↓3000

これでトラピーズ・フォースの攻撃力は3000……

もう1枚の伏せカード「トリック・バリア」で相打ちに持ち込めば……

返しのターンの直接攻撃で勝てる……！

魁「……」

あれは間違いなく迎撃のための罠……

ならば俺のやるべき行動は！

魁「俺は「ブーギートラップ」を発動！手札を2枚捨てる！」

そして墓地の罠を1枚、俺の場に伏せる！伏せるのは「デッドエンド・ホルン」！

ダリオ「でも罠カードは伏せたターンには発動できない……！」

魁「ブーギートラップで伏せたカードはそのターンに発動できる！」

遊希「決着……だな」

魁「発動せよ！」「デッドエンド・ホルン」！

ダリオ「まだまだ！僕は手札の「E m ダメージ・ジャグラー」の効果発動！

このカードを捨てて、ダメージを無効にする！」

魁「ならばキング・ホルンでダイレクトアタック！」

ダリオ「僕は手札の「E m ストリング・フィギュア」と、

墓地の「トラピース・フォース・マジシャン」の効果発動！

ダイレクトアタック時、「トラピース・フォース・マジシャン」は

墓地のE m を1体除外することで特殊召喚できる！

そして「ストリング・フィギュア」の効果で攻撃対象をこのカードに移す！

そしてストリング・フィギュアの戦闘ダメージは0になる！」

魁「俺は……ターンを終了する！」

ダリオ「僕のターン、ドロロー！このターンがクライマックス！」

魁「そう…このターンで終わりだ…！」

ダリオ「僕は「ストリング・フィギュア」の効果を発動！

このカードを含む融合素材を墓地へ送ることで融合召喚を行う！

僕が融合するのはトラピーズ・フォースとストリング・フィギュア！」

狂喜渦巻く舞台で華やかに駆け巡れ！永遠の奇術師よ！

融合召喚！現れる、E m エンタメイジトラピーズ・フォーエバー・マジシャン！

魁「…！新たなモンスター…！」

遊希「見たことのないE m エンタメイジだな…まさか…！」

『渾融の因子』が生み出したモンスターか…？

だとしたらもうすでに僕や遊悟並みに使いこなせているということ…

…本当に頼もしい味方ができたものだ…

ダリオ「トラピーズ・フォーエバーでキング・ホルンを攻撃！」

凜「攻撃力は同じ3000…相打ち狙い…？」

魁「いや…違う…！」

ダリオ「トラピーズ・フォーエバーは破壊された場合、

墓地の「E m エンタメイジ」を1体除外して特殊召喚できる！

行けえ！トラピーズ・フォーエバー！『フォーエバー・コンジュラー』！」

魁「…ここまでやるとは正直思わなかったぞ…！」

…だが…もう勝負はついている…

魁「…俺の勝ちでだ！」

俺は「ギミック・パペット・ボム・プリング」の効果発動！

このカードの装備モンスターが破壊された時、その攻撃力分のダメージを相手に与える！」

ダリオ「何!？」

凜「いつの間にそんなモンスターが…？」

遊悟「「ブーギートラップ」の手札コスト…！」

ブーギートラップに必要な手札2枚のうちの1枚。

「ボム・プリング」は墓地に落ちた場合に1度だけ、

場のモンスター1体にとりつく効果があるのだ。

ダリオ「くっ…！」

ダリオに防ぐ手立ては無い。

キング・ホルンの死に際の旋律はダリオを思い切り吹き飛ばした。

ダリオ LP1000↓0

ダリオ「うわああ」

衝撃によって体が浮く。

しかし、ダリオの体は地面に叩かれることは無かった。

ダリオの体を人形が抱え、優しく地面に降ろした。

ダリオ「魁…」

魁「…ダリオ…へっ、こんなことでケガでもされたら困るだけだ！

…これだけ強ければ後ろを任すこともできるだろうよ！」

遊悟「いい決闘デュエルだったぜ！」

凜「うん！面白い決闘デュエルだったよ！」

遊希「…ダリオ」

ダリオは遊希のいる方向を向いた。

遊希は右手をダリオに差し伸べていた。

ダリオ「遊希…」

遊希「これから…打倒ユーリを協力しよう」

ダリオ「…すまなかった…そして…ありがとう…遊希…

…ありがとう…！」

ダリオはここでやっと、自分に居場所ができた気がした。

そして決戦への決心ができた。

ユーリと闘うのはユーリを救うためだけではない。

ここにいる人の：カードになった人々の信頼を得るためにも、
弟との闘いは避けては行けない道ができた。

北のガーディアン

遊悟 「よっしやああ!!かかって来やがれオラアア!!」

遊悟、凜の「シンクロ次元」の新型決闘盤デュエルディスクには新機能、

リアルソリッドビジョン
実立体幻影のD・ホイール機能が搭載されている。

遊悟の仕事はとにかく目立ち、「融合次元」の兵士を引き寄せる陽動役であった。

「追え!! 困め!!」 「獲物を見つけたぞ!!」

遊悟 「ただ逃げるだけじゃあ意味も無い…少しぐらい倒してもいいだろ…?」

速度を落とそうとした時、

兵士たちは甲高い轟音を鳴らして迫ってきた。

「逃げられると思ったか!」

「これはユーリ様が「シンクロ次元」の技術の応用によって生み出された新兵器!」

「その名も『D・スケーター』!」

貴様のお得意の「疾走決闘」ラッシュデュエルで遊んでくれるわ!」

遊悟 「へえ…!なら遊んでやるよ…」

本物の「疾走決闘」ラッシュデュエルで相手してやるぜ!」

数十人もの兵士を引き連れて、荒廃した都市を疾走する。
にやりと笑い、疾走ライディング・デュエル決闘を開始した。

凜「僕は一番遠い場所：北の門へ行くよ！」

リナ「北：北の守護者はタッグデュエルが得意だから：
なるべく息の合う二人で行った方が……」

凜はリナの瞳を見つめる。

リナは少し照れくさく、目を逸らした。

リナ「な……なに？」

凜「う……うん！」

ねえ遊希？リナと行ってもいいかな？」

遊希「……最初の予定ではリナと魁で行く予定だった……魁、お前の意見を聞こう」

魁「……元々俺はタッグは苦手だな……」

兄妹ならまだ連携をとれやすいだろうって浅い考えで行こうとしてただけだ……

リナ、お前はどうかなんだ？こいつと……凜と上手く連携をとれるか？」

リナ「…分かんない…でも…」

リナは凜を見つめ返す。

屈託のない瞳がにんまりと笑った。

凜「心配しないでよ！遊悟とタッグしたことはあるけど、アイツ僕のモンスターまで素材にして罫に掛かったりとか、僕のターンにカードを一枚も残さなかつたりとか！

わがままな決闘デュエルばかりされたけどなんとかなつてたよ！

あなたは…なんとなく遊悟に似た空気を感じるからかな？」

リナ「さすがにそんなことは…」

凜「タッグで大事なのは思い切りの良さだよ！

あなたとなら思い切った決闘デュエルができそうってこと！」

遊希「…タッグデュエルはフィーリングが重要だ。」

そういうのを大切にして勝負の場に臨め。

魁は西の門に…ダリオは東の門…そして南には僕が向かう。

ここの警備にはリュウトとヒデアキ、防衛を頼むぞ」

ヒデアキ「まかせてくれ、遊希！」

ダリオ「それぞれの門に誰がいるのか…分かるかい、遊希？」

遊希「…北にはアインとヴァン…東はアルバン…西はティースとマルク…

南には…ヴォルフ…「融合次元」の部隊のリーダー格がいる」

名前を聞き、ダリオはそれぞれの実力を思い出す。

ダリオ「アインとヴァンは…実の姉弟だ。

タツグが得意と言っていたが…彼らの意志疎通には驚かされた…

マルクは元軍人で実力は僕が知る限りだけでも未知数…

アルバンは愉悦主義で…！…少し嫌な予感がするね…

ヴォルフは…底の见えない男だよ…遊希…」

遊希「そこまで分かっていたら十分だ。助かる。

…リナ？…そういえばどこに…？」

リユウト「リナなら凜と一緒にもう出たぜ」

魁「なにい！何故止めなかった！」

ヒデアキ「いやあ…「長い話は苦手だ」とか言って突然出ていったもんで…」

遊希「問題ない。僕たちも出よう」

少年たちはマンホールを開け、外を覗く。

辺りに兵士は見当たらない。

魁「無事でいろよ！解散！」

少年たちはそれぞれの目的地へと急ぐ。

この世界の支配者を討ち、自分たちの世界を取り戻すために。

凜「この世界は壁に囲まれているんだねえ」

リアルワールドビジョン
実立体幻影のD・ホイールに二人で跨り、

凜は自分にしがみつくリナに話しかけた。

リナ「ええ。外には工場地帯が広がっていた…」

今はこの都市は元の世界から隔離されてしまっていて、

壁の外には今は何もなければ…」

凜「へくえ…あの暗闇の向こうは今何もないのかあ…寂しいねえ…」

リナ「でも私は今の光景は嫌いじゃないわ。

前は煙ばかり上ってて…嫌な光景だったもの」

凜「…でもさ、僕には今の光景の方が怖いよね…」

あの向こう側に何も無いっていうのは…怖いよ…」

リナ「…そうかもね…ほら、あそこだよ」

少女の指差す先には門があつた。

リナ「元は工場地帯とのゲートだったんだよ。

…つと、もうおしゃべりの時間は終わりみたい…！」

凜「！」

疾走するD・ホイールに二つの影が飛び乗つて来る。

「ようこそ」『北の門へ！』

リナ「…お前たちが刺客…！」

「我が名はアイン！風の守護神なり！」

『我が名はヴァン！雷の守護神なり！』

凜「息ピッタリ！面白いねえ！」

リナ「感心しない！こいつらは敵よ！」

ヴァン『我らが得意とするタッグデュエルを受けてもらおう！』

アイン「我らが勝てば貴様らの魂はカードに封印させてもらう！」

凜「僕たちが勝つたら…？」

アイン「フツ！あり得ないな！」

ヴァン『あり得ないが…万が一貴様らが勝てれば…』

アイン「貴様らの望みをなんでも聞いてやる！」

リナ「ここから立ち退いてもらう以外に無いんだけど……!」

凛「負けてから待ったは無しだよ!」

アイン「いいだろう……いざ!」

ヴァン『尋常に!』

アインとヴァンは左右対称の剣を構える。

凛とリナも決闘盤デュエルディスクを構えた。

『『『デュエル!!』』』

タッグデュエルルール

①：フィールドは共有。

モンスターの戦闘による超過ダメージはそのモンスターのコントローラーが受ける。

②：LPはそれぞれが持つ。

味方プレイヤーのLPが尽きた場合、2vs1で決闘デュエルを続行する。

③：フィールドのモンスターを素材にする場合、

味方プレイヤーのモンスターを召喚のための素材に使用できる。

④：自分のモンスターをコントロールしていないプレイヤーがいる場合、そのプレイヤーへ直接攻撃できる。

その場合、味方プレイヤーは自身のモンスターでかばうことができる。

⑤：第1プレイヤーはドロートバトルをおこなうことができず、第2プレイヤーからバトルを行うことができる。

ターンの回っていないプレイヤーへの攻撃は禁止。

アイン「私のターン！自分の場にモンスターがない時、手札から永続魔法「スローライフ」発動！

このカードが存在する限り、通常召喚したターンは特殊召喚できず、特殊召喚したターンには通常召喚ができなくなる！」

凜「厄介なカードだね……！」

アイン「そして私は永続魔法「バックアップ・セレクト」を発動！

手札の「ガーディアン・エルマ」を見せることでデッキから対応する装備魔法「蝶の短剣―エルマ」を手札に加える！」

リナ「サーチカード…何を狙っている…？」

アイン「さらに私は永続魔法「ガーディアン・フュージョナー」を発動！

このカードは手札・フィールド・墓地のモンスターと、

そのモンスターに記されている装備魔法を除外することで融合する！」

凛「装備魔法と融合だって!？」

アイン「私が融合するのは「ガーディアン・エルマ」と「蝶の短剣―エルマ」！」

新生の守護者！神秘の渦より生まれよ！

融合召喚！出でよ、ネオガーディアン・エルマ―バタフライ！

蝶の翼で飛び交う、可憐なる戦士が現れた。

アイン「カードを1枚伏せてターン終了！」

少女らは目線を合わせ、コンタクトをとる。

リナはこくりと頷いた。

凛「…よし！僕のターンから行かせてもらおうよ！ドロー！」

自分フィールドにカードが存在しない場合、

手札から「B F―逆風のガスト」を特殊召喚する！」

アイン「特殊召喚したことでこのターン、貴様は通常召喚をおこなうことはできない

！」

凜「構わないよ！そんなので僕の翼を止めることはできないんだからさ！

僕は「B F―疾風のゲイル」を特殊召喚！「ゲイル」の効果を発動！

相手モンスター1体の攻撃力を半分にする！」

ビュオンと空を裂き、一縷の風がエルマーバタフライを襲った。

ネオガーディアン・エルマーバタフライ ATK1600↓800

凜「まだまだだ！僕はレベル2のガストにレベル3のゲイルをチューニング！」

漆黒の翼！煌きを放つ新星を掴め！

シンクロ召喚！来い、ブラックフェザー B F―煌星のグラム！

凜「煌星のグラムの効果！手札のブラックフェザー「B F」を特殊召喚する！

「B F―砂塵のハルマツタン」を特殊召喚！

「ハルマツタン」の効果！自身のレベルにグラムのレベル5を加える！

さらにブラックフェザー「B F」が僕の場合にいる時、ブラックフェザー「B F―突風のオロシ」を特殊召喚する！

リナ「すごい……ここまで一気に展開するなんて……！」

凜「僕はレベル7のハルマツタンにレベル1のオロシをチューニング！」

漆黒の翼翻し、秘めたる想いを現出せよ！

シンクロ召喚！舞い上がれ、ブラックフェザー・ドラゴン！

黒い翼を羽ばたかせ、黒翼の竜が産声を上げる。

凜 「バトル！グラムでエルマーバタフライを攻撃！」

アイン 「エルマーバタフライの効果！「ガーディアン」は1度だけ破壊されない！」
リナ 「でもダメージは受けてもらう！」

アイン LP4000↓2000

アイン 「永続^{トラップ}罠」「ガーディアン・アライアンス」！

ダメージを受けた場合に1度、デッキから「ガーディアン」モンスターを手札に加える！

私は「ガーディアン・ケースト」を手札に加える！」

凜 「ダメージを受ける度にアドバンテージを稼がれる…か…」

リナ 「でも早い段階で2V S1の構図を作ればこちらが有利！」

凜 「そうだね！僕はグラムで攻撃する！」

グラムの持つ剣が蝶の戦士の翼を切り裂いた。

アイン LP2000↓600

アイン 「ぐうっ」

ヴァン 「平気か？」

アイン 「…当然！」

ヴァンはアインを気遣っている。

彼らの絆の深さをうかがわせる。

アイン「「エルマーバタフライ」の効果！

このカードが墓地へ送られた場合、このカードを特殊召喚する！」
地面から風が舞い上がる。

再び蝶の翼を授かりし戦士が蘇った。

リナ「破壊しても無駄ってこと…!?!」

凜「…カードを2枚伏せてターンエンド！」

ヴァン「今度はこちらのターン！俺は「守護神の宝札」を発動！

手札のカード5枚を捨て、デッキから2枚ドロウする！

次のターンのドローフュイズからこちらは2枚のカードをドロウする！」

リナ「お互いのフオローをしているとでもいうの…?」

ヴァン「俺は「バックアップ・セレクト」の効果を使い、

手札の「ガーディアン・バオウ」に対応する「破邪の大剣―バオウ」を手札に加え、

「ガーディアン・フュージョナー」を発動する！」

凜「バオウの融合…!」

新生の守護者！神秘の渦より生まれよ！

融合召喚！出でよ、ネオガーディアン・バオウ―ブレイカー！

禍々しく漆黒に染まる剣を掲げた巨大な悪魔が姿を見せる。

ヴァン「まだだ！」「ガーディアン・フュージョナー」は1ターンに何度でも使用できる！

墓地の「ガーディアン・トライス」と「閃光の双剣―トライス」を融合する！

リナ「まだ融合するの…！」

新生の守護者！神秘の渦より生まれよ！

融合召喚！出でよ、ネオガーディアン・トライス―ライトニング！

輝く二対の剣を操る騎士が降り立つ。

凜「これで3体目の融合召喚…！」

ヴァン「バオウ―ブレイカー」の効果でこちらの場の「ガーディアン」は

攻撃力が全て1000アップする！

ネオガーディアン・エルマーバタフライ ATK2600

ネオガーディアン・バオウ―ブレイカー ATK2300

ネオガーディアン・トライス―ライトニング ATK2400

ヴァン「バトル！バオウ―ブレイカーで煌星のグラムを攻撃！」

バオウはその巨大な剣で黒翼の剣士を切り捨てた。

凜「くっ！」

凜 LP4000↓3900

ヴァン「さらに「トライスーライトニング」の効果！

自分「ガーディアン」に2回攻撃を付与する！バオウブレイカーで攻撃！

凜「ブラック・フェザーの方が上なのに…!？」

ヴァン「バオウブレイカーの効果！このカードが戦闘破壊に成功した場合、

バオウブレイカーの攻撃力をさらに1000アップする！」

ネオガーディアン・バオウブレイカー ATK2300↓3300

凜「くうっ…！」

凜 LP4000↓3500

ネオガーディアン・バオウブレイカー ATK3300↓4300

リナ「バオウの攻撃力が4000を超えた…！」

ヴァン「さらにエルマーバタフライでダイレクトアタック！」

先程のお返しとばかりに猛突撃を喰らわせる。

凜 LP3500↓900

凜「うあああ」

リナ「凜!!」

蝶の戦士の突進に廃ビルの壁まで飛ばされ、叩きつけられた。

凜「うう……くっ！ 罨^{トラップ}発動！「痛恨の調律」！

相手の直接攻撃を受けた時、墓地のシンクロモンスター1体を特殊召喚する！
僕はブラック・フェザー・ドラゴンを特殊召喚！

少女らに寄り添うように黒翼の竜が復活した。

凜「この効果で特殊召喚したモンスターが攻撃した場合、

そのバトル終了時に破壊される……」

ヴァン「俺はカードを1枚伏せてターンエンド！」

リナ「私のターン、ドロロー「目覚めの囁^{ささや}き」を発動！

手札から鳥獣族モンスター1体を特殊召喚する！

私は手札から「エアースフィア」を特殊召喚する！」

ヴァン「「スローライフ」の効果で通常召喚できなくなる！」

リナ「さらに「ブリーズ・スフィア」を特殊召喚！

このカードは自分の場にレベル5以上のモンスターがいる場合に特殊召喚できる！

これでレベル2のモンスターが2体！2体のモンスターでオーバーレイネットワー

クを構築！」

重なる絆が新たな奇跡を呼び起こす！ここに目覚めよ！

エクシーズ召喚！現れなさい、オーバーラップ・スフィア！

蒼い身体を持つ、神々しい神鳥が舞い降りる。

リナ「オーバーラップ・スフィアの効果発動！ O R Uを1つ使い、

オーバーレイユニット

相手の場のカード全てのモンスター効果をターン終了時まで無効にする！」

凜「強力う!!」

ヴァン「バカな!?!」

アイン「なに!?!」

空気の球を抱えた大鳥が大きな風を巻き起こした。

リナ「私はオーバーラップ・スフィアに「クロスフィア」を発動!

自分モンスター体の攻撃力を0にし対象モンスターの攻撃力に加える!」

凜「ブラックフェザーの破壊を回避しつつ、

さらにブラックフェザーを活かした闘い……いいねえ!」

オーバーラップ・スフィア ATK1000↓3800

リナ「私はオーバーラップ・スフィアでエルマーバタフライを攻撃!」

アイン「……私から確実に倒そうってことね……」

ヴァン「愚かなり! 罠カードトラップ「ガードedian・ガードパス」!

攻撃対象を自分の「ガードedian」に変更する! バオウブレイカーに変更!」

オーバーラップ・スフィアの放った烈風をバオウはその身に受けた。

ヴァン LP4000↓1500

ヴァン「くっっ！」

リナ「……！」

仕留めきれなかったか……！

ヴァン「表側表示の「ガーディアン・アライアンス」の効果を発動！

デッキから「ガーディアン・シール」を手札に加える！」

リナ「私はカードを2枚伏せてターンエンド！」

ヴァン「「ガーディアン・ガードパス」のもう一つの効果！」

ターン終了時、「ガーディアン」を相手プレイヤーに渡す！アイン！」

シャツと手札に加えた「シール」をアインに渡す。

アイン「OK！私のターン！「守護神の宝札」で2枚ドロウする！」

凜「隙の無いコンビネーション……！」

リナ「このままでは勝てない……！」

アイン「私は「バックアップ・セレクト」の効果で「流星の弓シール」を手札に加

える！

そして「ガーディアン・フュージョナー」でシールを融合！」

新生の守護者！神秘の渦より生まれよ！

融合召喚！出でよ、ネオガーディアン・シールーメテオ！

アイン「さらに手札の「ケースト」を融合する！」

新生の守護者！神秘の渦より生まれよ！

融合召喚！出でよ、ネオガーディアン・ケーストーサイレンス！

凜「一気に2体のモンスターを……！」

炎の甲冑を着る竜の頭を持つアーチャーと水を操る人魚が現れ出た。

アイン「ネオガーディアン・シールーメテオ」の効果が発動！

自分の場のカードと相手の場のカードを1枚ずつ破壊する！

こちらのカードは「エルマーバタフライ」の効果で破壊されないがね！」

リナ「罨^{トラップ}発動！「大気昇揚^{たいきしやうよう}」！

スファイアがいる場合、自分の場のカードの効果による破壊をこのターン無効にする

！」

スファイアのバリアがシールーメテオの炎撃を弾いた。

ヴァン「こちらの「トライスーライトニング」の効果！

墓地のモンスター1体を守備表示で特殊召喚する！蘇らせるのは「バオウーブレイ

カー」！」

巨大な翼が再び瓦礫から蘇る。

アイン「これで「ガーディアン」の攻撃力は全て10000アップする！」

凜「くう！このままじゃあ……！」

リナ「私たちの……」

……負け……

凜「……僕は罠トラップカード「シンクロ・バリアー」を発動！」

黒翼の竜が姿をくらませた。

残した黒い羽が二人を守るように覆った。

凜「自分のシンクロモンスターをリリースすることで、

次のターンまで受けるダメージを全て0にする……」

アイン「……攻撃しても効かないってわけね……カードを1枚伏せてターンエンド！」

リナ「凜！どうして!？」

ブラックフェザー・ドラゴンは破壊されないからリリースしなければ残ったのに！」

凜「……悪いけど……一人じゃ絶対あのコンビには勝てないよ……！」

リナ「一緒に闘うんだよ！そうすればあのコンボを崩せるかもしれないんだから！」

ヴァン「……フツ！」

アイン「……ハッ！」

シールメテオには「ガーディアン」に直接攻撃を付与する効果がある……

どうにしろ使わざるを得なかったわけだが…

リンとかいう女の機転に救われたってどこか…

凜「行くよ…僕のターン！ドロー！」

…「大扉のヴァーユ」…壁モンスターにするしかないが…

もう次ターンまでもたせることはできない…！

凜「…くっ…僕は…！」

リナ「私のカードを使って、凜！」

私の伏せカードは「エクシーズの宝札」！」

凜「…！」「エクシーズの宝札」を発動！」

リナ「…このカードは自分の場のランク4以下のモンスターエクシーズ、

そのランクの数だけドローできる！引いて、凜!!」

ヴァン「…ドローを託したか…」

アイン「自分でも使えたはず…なのに…」

凜「僕はカードを2枚ドローする…！…！来た！」

僕は「黒羽の宝札」を発動！手札のヴァーユを墓地に送り2枚ドローする！」

ヴァン「逆転に繋がる一手を掴んだか…！」

凜「まだまだあ！僕は「逆巻のトルネード」を召喚！」

相手の場に特殊召喚されたモンスターがいる時、

墓地からレベル1の「B F」を特殊召喚する！

復活せよ！「突風のオロシ」！

細身の剣を振るい、墓地のチューナーを召喚する。

アイン「チューナー…シンクロ召喚か…！」

凛「僕はレベル4のトルネードにレベル1のオロシをチューニング！」

黒き烈風よ、絆を紡ぐ追い風となれ！

シンクロ召喚！出でよ、
A B F — 五月雨のソハヤ！

リナ「アサルト…ブラックフェザー…！」

凛「僕は墓地の「大扉のヴァーユ」の効果を発動！

自分の場の「B F」とこのカードを除外することで、

墓地からシンクロ召喚を行うことができる！」

黒翼の小鳥たちが舞い上がる。

凛「再び出でよ、
A B F — 五月雨のソハヤ！」

アイン「また同じモンスターを召喚して何になる…？」

凛「これで準備は整った！」

ヴァン「準備だと…!?!」

凜「アサルトブラックフェザーA B F」は「ブラックフェザーB F」を素材にシンクロ召喚した場合に、

チューナーとしても扱うことができる！」

リナ「シンクロ…チューナー…？」

凜「僕はレベル5のソハヤにシンクロチューナー、レベル5のソハヤをチューニング
！」

凜は廃ビルをソハヤと共に高速で駆け上がった。

そして音速を越え、光速を越え、やがて姿を消した。

リナ「…！消えた!?!」

漆黒の翼羽ばたかせ、天を裂く剣となれ！

シンクロ召喚！出でよ、アサルトブラックフェザーA B F—そぞろあめ漫雨のコテツ！

姿を消した少女は純白の刀を構える黒き翼の侍と共に降り立つ。

凜「ソハヤの効果発動！このカードが墓地へと送られたターン、

墓地の他のソハヤを除外することで墓地のこのカードを特殊召喚する！

そして魔法カード「連鎖調和」を発動！

自分の場に1番レベルの高いシンクロモンスターがいて、

そのレベルの半分以下のシンクロモンスターが存在する時、

さらにその半分以下のレベルのシンクロモンスターをエクストラデッキから特殊召

喚する！」

ヴァン「まだ…やる気か！」

凜「僕はレベル2の」ブラックフェザー「B F」一番風のサーマル」を召喚！

そしてサーマルの効果！」ブラックフェザー「B F」をリリースすることで、

墓地のシンクロモンスターを特殊召喚する！ブラックフェザー・ドラゴンを召喚！」

再び少女の元に黒羽の竜が舞い降りる。

凜「サーマルはシンクロチューナー！この意味がわかるかい？」

アイン「新たなシンクロ召喚…！」

凜「リアルソリッドレジョン・ライディング・モード」実立体幻影！疾走形態！

行くよ！ブラックフェザー！！」

凜はD・ホイールを呼び出し、黒羽の竜の哭声を合図に凜は竜の背に乗った。

竜は天へと昇り姿を消した。

無限の力、未来へ進化する！漆黒の願い、今ここに解き放て！

アクセルシンクロ疾走調和！降臨せよ、アサルト・ブラックフェザー・ドラゴン！

さらに数を増した黒翼を持つ竜が少女と共に降り立つ。

リナ「すごい…！」

凜「リナ！君のモンスターの番だよ！」

リナ「……！ええ！私はオーバーラップ・スフィアの効果を発動！
オーバーレイユニット
ORU1つを使い、相手モンスターの効果が無効にする！」

アイン「ヴァン……」

ヴァン「……！」

凜「よしバトル!!漫雨のコテツでエルマーバタフライを攻撃！「ボルテックスビート」
！」

コテツは鋭い刃を構え、エルマを切り伏せる。

アイン「うわああ」

ヴァン「アイン!!」

アイン LP600↓0

「融合次元」からの刺客のうち1人の撃破に成功した。

しかし、

アイン「……くっ……！ヴァン！」

ヴァン「……！^{トラップ}罠発動！「ガーディアン・ラスト・ブレイク」！」

「ガーディアン」が戦闘破壊された時、

バトルを終了させ、相手に破壊されたモンスタアの攻撃力分のダメージを与える！」

散り際にエルマから一陣の風が鋭く刺した。

凜「アサルト・ブラック・フェザーの効果！

ダメージを0にして、このカードに黒羽カウンターを乗せる！」

一陣の風を黒羽の竜は吸収し無効化した。

アサルト・ブラックフェザー・ドラゴン ATK3500↓2800

ヴァン「攻撃力が下がった……」

凜「カードを1枚伏せてターンエンド！」

ヴァン「俺のターン……守護神の宝札」で2枚ドロウする！

……俺は「バックアップ・セレクト」で手札の「ガーディアン・グラール」に対応する「重力の斧―グラール」を手札に加える……そしてこの2枚を融合！」

新生の守護者！神秘の渦より生まれよ！

融合召喚！出でよ、ネオガーディアン・グラール―グラビティ！

重鈍な斧を担ぎ、剛腕なトカゲの兵士が現れた。

ヴァン「バオウブレレイカーにより攻撃力は4000！」

バトル！グラール―グラビティでアサルト・ブラックフェザーに攻撃！

まずは1人目！

リナ「凜！」

凜「……このままじゃマズいか……！でも……リナ！」

これで逆転のカードを！僕は罨トラップカード「マジカル・ギフト」を発動！」
ヴァン「それは……！」

アイン「タッグ専用カード!？」

凜「……まあ使にくいカードなんていつも持ち歩いてるんだけど……」

タッグデュエルって言うからデッキに入れたんだ！」

リナ「マジカル・ギフト」……相手のデッキからカードを1枚ドロし、

それが魔法なら発動させる……通常の決闘デュエルなら見向きもされないカード……！」

凜「対象は当然！リナ！」

リナ「タッグデュエルで使われるようになったカード……」

今は私に……全てを託してくれるカード！私はカードを引く！」

あのカードを引くしかない……！」

遊希に託された……あの魔法マジック！

リナ「ドロー!!」

輝く一閃。

引いたカードは……

リナ「引いたのは……魔法マジックカード！」

私は「RUM」アトモス・フォース」を発動！」

アイン「ランクアップ……！」

リナ「自分の場の風属性エクシーズのランクを1つ上昇させる！」

オーバーラップ・スフィアでオーバーレイネットワークを再構築！」

重なる絆が命の息吹を巻き起こす！ここに目覚めよ！

エクシーズ召喚！現れなさい、オーバークロス・スフィア！

大きな水晶を抱える巨大な翼を持つ大鳥が優しい光と共に舞い降りた。

凜「すごいすごい!!」

リナ「「アトモス・フォース」の効果！

この効果で召喚したモンスター以外のモンスターの攻撃力は

全てターン終了まで攻撃力が0になる！」

ヴァン「なに?!:くそっ!カードを1枚伏せてターンエンド!!」

リナ「私のターン!私はオーバークロス・スフィアでバオウブレイカーを攻撃!」

凜「よし!確実に倒していこう!」

鳳翼の一撃が悪魔へと襲い掛かった。

ヴァン「罨^{トラップ}発動!「ガーディアン・ハート」!」

グラールに場、墓地のガーディアン達の力が集結していく。

ヴァン「自分のガーディアン1体を対象に、全てのガーディアンを除外!

除外したガーディアン全ての攻撃力を統一する！」

ネオガーディアン・グラールーグラビティ ATK4000↓9000

リナ「攻撃力：9000!?!」

ヴァン「グラールーグラビティの効果で相手は攻撃しなければならない！」

リナ「オーバークロス・スフィアの効果でモンスター効果を無効に……」

凜「いや！攻撃だ！」

アイン「ここまでできて血迷ったの！」

凜「いや……至って冷静だよ！攻撃だよ、リナ！」

リナ「……信じるわ！私は攻撃を続行する！」

鳳翼の一撃をグラールは返り討ちにする。

跳ね返ったダメージを黒翼の竜が吸収する。

凜「アサルト・ブラックフェザーの効果！」

このカードの戦闘以外の全てのダメージを無効にし、

無効にした分だけこのカードに黒羽カウンターを乗せる！『ハイパー・ダメージ・ド

レイン』！」

リナ「……！漫雨のコテツで攻撃！」

凜『サンダーストーム・ビート』!!」

一瞬の雷鳴がグラールを斬り付ける。

衝撃は先程同様、アサルト・ブラックフェザーが吸収した。

ヴァン「今度はそいつで攻撃かい!？」

凜「いや…決着だよ!今度こそ!アサルト・ブラックフェザーの効果!

自分ターンに黒羽カウンターを全て取り除き、

相手モンスターの攻撃力を1つにつき700下げ、

相手に1つにつき700のダメージを与える!

取り除いた数は3!よってダメージは…!」

リナ「2100!」

ヴァン「バカな…バカな!!」

凜『『ブラック・レガリア・バースト』!!』

ヴァン「ぐわああ」

ヴァン LP1500↓0

Winner 凜&リナ

ドシヤリと足元からヴァンは崩れ落ちた。

アイン「ヴァン!」

リナ「アイン、ヴァン…

あなたたちを…拘束させてもらうわ…！」

凜「ごめんね」

リナは持参していた縄で二人を縛った。

凜「遊悟は平気かな…？」

リナ「…遊希…私…私頑張ったよ…！」

北の守護者を撃破し、他で闘う同志を心配する。

都市の各地には遊悟が上げたであろう煙が上がっていた。

同じ時刻、各地の刺客と『レジスタンス』の決闘が^{デュエル}決着が付こうとしていた。